薬剤部

部長　山田 清文（教授）

膨大な医薬品の管理を一手に受け持つ

薬剤部長、副薬剤部長（５名）、薬剤主任（13名）、薬剤師（54名）、薬剤師レジデント（６名）、事務職員（４名）で構成されています。

業務体制

調剤室、注射調剤室、製剤室（第一・第二・第三）、麻薬室、薬品情報室、薬歴管理室（第一・第二・第三）、試験室、薬務室、高度医療薬剤支援室、医薬品安全管理支援室および事務室で構成されています。

業務内容

医薬品の調剤・管理・発注、院内製剤・輸液・抗がん剤の調製、麻薬管理、医薬品情報の収集・提供、薬事委員会業務全般、薬物血中濃度測定・投与設計、服薬指導、持参薬確認、退院時服薬指導などを行っています。

特色

主治医からの依頼あるいは患者の希望により、気管支喘息の吸入療法、ワーファリン、アリセプトの適正使用について個別指導（薬剤師外来）し、有効性・安全性を考慮した最適な薬物療法を支援しています。

業務実績

その他の支援業務として、認証レジメンに基づいたがん化学療法の処方監査・抗がん剤調製（化学療法部）、およびＰＥＴに用いる薬物の検定（放射線部）を行っています。

その他の取り組み・研究

関連学会の認定・専門薬剤師の資格を有する当部職員は延べ 24 名、博士号取得者は 14 名です。また、薬剤部長および副薬剤部長５名のうちの１名は、医学部の教育および大学院医学系研究科医療薬学を担当する教員です。

看護部

部長　三浦 昌子

安全で信頼と安心を提供できる看護を目指す

患者さんの権利を尊重し、より質の高い看護サービスの提供を目指しています。また優秀な看護師を育成するため、様々な取り組みを行っています。

業務体制

患者さんの権利を尊重し、「安全」で「信頼」と「安心」を提供できる看護を目指し、組織一丸となって、より質の高い看護が提供できるように、副病院長である看護部長以下、６名の副看護部長、教育・研究・感染・安全・地域支援などの専任の師長を含め、各病棟・外来・中央診部門に師長を配置しています。

業務内容

高度な総合医療を提供する大学病院の看護部は、より質の高い看護サービスを提供するため、人事・業務・教育・医療情報・人材確保・看護サービス・安全という業務の役割の中で、高度な専門性と先進性を追求し時代や社会の変化に応じた積極的な活動を展開しています。また、施設内にとどまらず、大学病院の実践知と教育を通して地域との連携を推進しています。

特色

卓越した技術、深い知識、そして豊かなホスピタリティマインドを備えた看護師を育むために、実践と教育を通して、誰もが一人前の看護師として成長できるように充実した教育環境を整えています。2009年度からは、全国に先駆けて新人看護師を対象とした卒後臨床研修制度を導入し、職業人として成長・発達できる教育を組織的に取り組んでいます。また、2006年度からは、看護管理にBSCによる目標管理を実践することで、常に看護を顧客の視点でとらえ、組織の活性化を図っています。

業務実績

高度な専門知識とハイレベルな看護技術を備えた専門看護師・認定看護師が、広範囲な領域でそれぞれ組織横断的に活動し、看護ケアの質の向上に努めています。また、院内認定コースとして、「マネジメントコース」「クリティカルコース」「感染管理コース」を運営しています。

その他の取り組み

時代のニーズに合わせて、常に変化に対応できる組織作りを行っています。2010 年度には、文部科学省の大学改革推進事業において「Saving life ナース育成プラン」が採択され、クリティカル場面に的確に対応できる看護師の育成に取り組んでいます。また、2011 年度からは、看護体制の見直しやアジア圏との国際交流を開始しています。